

第9回蒲生干潟自然再生協議会議事要旨

日 時:平成20年3月29日(土)

10:00~12:00

会 場:中野コミュニティー・センター 大広間(千鳥1)

協議事項

- (1)第3回自然再生施設検討部会の開催結果について
- (2)自然再生施設試験施工について
- (3)干潟・砂浜の修復実施計画(最終案)及び自然再生全体構想について
- (4)蒲生干潟旧仙台乗馬クラブ用地について
- (5)報告事項
 - ・七北田川河口部(蒲生地区)津波対策事業について
 - ・仙台塩釜港の港湾計画改訂について

その他

- (1)今後の蒲生干潟自然再生協議会の進め方について
- (2)委員の改選について

1 開会

2 会長挨拶

【澤本会長】

蒲生干潟自然再生協議会は3年前から始まり、今回が9回目となる。前半は、津波対策事業と自然再生事業をどのようにして調和を取りながらまとめていくかということで1年半程かけて自然再生全体構想と津波対策工事の関係をまとめあげたところである。後半の1年半は、各部会に別れて、試験施工を実施したり、実施計画の検討をしてきた。後半についてもいろいろ成果が上がってきたようである。また、津波対策工事についても、今日配布されている工程表では、来年の今頃には仮設道路撤去という最初の約束どおりに進んでいるようである。

11月に全国の自然再生協議会の連絡会があり、いろいろな話を聞いたが、蒲生の協議会は住民の方々との話も活発にされている協議会であり、それだけこの協議会が内容のあるものになっていたと思う。

今日は2時間という限られた時間であるので、的確な御発言をお願いします。

3 協議事項(澤本会長が議長として議事を進行)

【澤本会長】

(1)第3回自然再生施設検討部会の開催結果について部会長の上原委員から説明願う。

(1) 第3回自然再生施設検討部会の開催結果について

【上原委員】 資料-2について説明

(特に異議なく了承される)

【澤本会長】

(2) 自然再生施設試験施工について事務局から説明願う。

(2) 自然再生施設試験施工について

【事務局(自然保護課)】 資料-3について説明

【澤本会長】

全体的な感想として、堆砂垣については、冬の3か月間だけの結果となっているので、通年で本当に効果があるのか引き続き観測してほしい。

【上原委員】

16ページの上の図で、事業実施後の干潟というのが青いハッチで示されているが、現在のヨシ原の箇所が含まれている。その部分が干潟として利用されることで、その箇所のヨシ原をなくす形となるが、ヨシ原が存在することによる利点も多くあり、ヨシ原を完全に刈るかどうかということは、様子を見ながら考えていくということなので、ヨシ原を完全に除去することに決定したのではないということを確認しておいてほしい。

【澤本会長】

前回の協議会でも副会長から発言がありましたが、蒲生干潟は、微妙なバランスで成り立っているところであるので、乱暴に方針を決めて実施するのではないことを協議会で確認したい。

【澤本会長】

(3) 干潟・砂浜の修復実施計画(最終案)及び自然再生全体構想について事務局から説明願う。

(3) 干潟・砂浜の修復実施計画(最終案)及び自然再生全体構想について

【事務局(自然保護課)】 資料-4及び資料-5について説明

【熊谷委員】

51ページの基礎調査の鳥類のところ、鳥類調査については、蒲生を守る会で協力することになっているが、時期として、3月から5月、8月から11月と限定した理由は何か。当会では、通年でデータを取っているの、そのまま提供する形を基礎調査と考えていたが、それとは別にこの時期に特別な調査を実施するという事なのか。

【事務局(自然保護課)】

蒲生を守る会の調査の負担を考慮し、必要最小限として、シギ・チドリが飛来する3月から5月、8月から11月のうちの1ヶ月間を調査の期間としている。

【熊谷委員】

シギ・チドリについてもこの時期だけではなく通年で来るし、シギ・チドリ以外の多くの鳥類についてもモニタリングのデータとしては、重要になると思うので、蒲生を守る会としては、通年のデータを提供することについては、異論もないし、むしろそうしていただきたいので、通年を通して調査を実施するというようにしてほしい。

【澤本会長】

趣旨は十分わかったので、文言について不都合があれば後で訂正することとしたい。

できるだけ、いろいろな方の協力を得て実施していくのが協議会の趣旨としても良いことだと思う。

詳しい文言については、熊谷委員と相談して決めるように対応願う。

先ほどの説明にもあったように、熊谷委員の指摘で一部修正があるかもしれないが、これが最終案で、後日完成版となる。実際に実施計画を進めるなかで、いろいろ再検討しなければならないことがある場合には、柔軟に見直していくことになるが、この部会、協議会では、現案を了承したことになるがよいか。

全体構想については、実施計画との整合を取ったということなので、大きな内容の変更ではない。

もしよろしければ、これを最終案としてこの協議会で了承したことにする。次回以降は、これに基づきながら事業を進めていくということになる。

【澤本会長】

(4) 蒲生干潟旧仙台乗馬クラブ用地について事務局から説明願う。

(4) 蒲生干潟旧仙台乗馬クラブ用地について

【事務局(自然保護課)】 から説明

【澤本会長】

旧乗馬クラブ用地が大きく変われば、蒲生についても影響があるが、自然再生事業としてどれだけかわれるかということになる。ここは、仙台市なので仙台市としてどのようにこの地域を管理していくのかということと、自然再生事業との関連で決まってくると思う。現時点のアンケートでは、具体的な方針が決まっていないということなので、非常に大きな関心はあるが、すぐに動き出せる状況ではない。常に状況を見ながら、悪い影響がある場合には、方策を検討するが、現時点では動きづらいという感じを持っている。

【日下委員】

この土地取得に関しては、事前に国の鳥獣保護区の指定区域であったものが外されるということで始まったことである。所有者としては、将来的に土地を手放すということから、これが売却された場合に、土地環境、自然保護、自然再生に支障を来たす土地の利用を懸念していることから、取得について、県、市、環境省に検討してもらったが、行政の立場としては取得できないという結果から、最終的にNPO法人を立ち上げてナショナルトラストの方向でできないかという模索をした。

結論として今の事務局の説明としては、様々な支障がありできないということであるが、地域の方の意見を聞いたうえで、国、県、市と共に自然再生というものを創る姿勢と方策を見つけていくことを期待していた。

それぞれの関係者の意見もこれが最後だと思うので、ぜひ話をしてほしいと思う。

【鈴木委員】

全体構想で観察施設の設置が中長期計画に位置づけられており、関係者の協力を得て環境教育を地域のまちづくり活動と連携しながら進めると記載がある。現在問題となっている土地の利用が、全体構想の中でどのように関係しているのかを考えると、全体構想で記載があるのならば、実現する方向に向けて考えていきたい。蒲生の自然を守っていくには、いろいろ利用できるであろう場所があるので、もう少し積極的に考えることをしていけばと思う。

【事務局(自然保護課)】

全体構想に関しては、実施計画の検討や実施に伴って全体構想が変わっていく可能性はあるので、全体構想に記載のある内容が金科玉条というわけではないと考えている。当然、検討は必要となるが、現時点では、自然再生事業としての実現可能性が非常に低いということで、今後、管理計画検討部会でどのように考えていくか、またその結論に基づいて協議会の中でどのように考えていくかという余地はあるということである。

あの土地にそのような施設をつくるのは、事務局としては難しいと考えているということである。

【澤本会長】

全体構想の環境教育の計画等の様々な話が出てきた段階で、いろいろな検討があるので、協議会としては、常に関心を持ち続けていくということになると思う。

【菊地副会長】

金科玉条ではないということであるが、順応的な管理の中で、計画の記載どおりにはいかないということであり、全体構想の基本的なところは変わらないと思う。

【事務局(自然保護課)】

金科玉条と言った意味は、一言一句そのまま実現するわけではないという程度の意味である。

【澤本会長】

基本的趣旨からいけば例えば施設をつくることに関しては、協議会で了解したということであるが、場所をどうするかということなどは、別のことであるということであると思う。

この件に関しては、審議というわけではなく継続的に関心を持っていくということによいか。

【熊谷委員】

難しく判断できない部分が多い問題だと思う。差し迫ったことが今後出てくることもあると思うが、観察小屋の必要性や設置場所の検討も含めてできれば協議会の中で検討したい問題であると思う。今回の問題についても、3部会の中のどこかで検討していきたいと思うので、担当する部会をここで確認して、担当部会の中で継続して検討してほしいと思う。

【日下委員】

熊谷委員発言の関連だが、実現のためには、地域の皆さんの意見を聞いてはどうかと思う。取得方法に関しては、地域と協議すれば道は開けると思う。具体的なニーズを、地域の皆さんの目線から見て、自然再生にも活用できる土地の利用でこの1.2haが地域の中で有効利用されるように、委員、事務局としてもあきらめないで検討してほしい。

【事務局(自然保護課)】

熊谷委員から提案のあった件については、昨年度の第7回での協議会で管理計画検討部会で検討するという事で合意されている。

【澤本会長】

管理計画検討部会である程度議論した段階で、協議会で地元の委員のもとで議論していくことにしたいと思う。

今回の協議会で結論が出る話ではないので、特に意見がある方は、事務局に連絡願う。

【澤本会長】

(5)報告事項①七北田川河口部(蒲生地区)津波対策事業について担当課から説明願う。

(5)①七北田川河口部(蒲生地区)津波対策事業について

【県河川課】 資料-7について説明

【片桐委員】

東土木所長と引継ぎについては確実に実施するように確認しているので心配ないと思う。

【郷右近委員】

P12にあるカジイチゴの移植のことがシロダモとあわせて記載しているが、移植予定地は決まっているのか。

【県河川課】

カジイチゴについては、平成20年4月に予定している。場所については、仮設道路を造っている仙台港の緑地部分に仮移植した後に、区間3の堤防の背後の樹林帯をつくる計画となっている箇所に移植することを考えているが、樹林帯には、区間1の保安林のマツや地元からサクラを植えてほしいという意見もあり、バランスを今後検討することとなるので、意見をいただければと思う。

【上原委員】

P8の地下水位の低下についてだが、評価結果のところやや地下水が低下したが影響は少ないと記載されているが、ややというのはどのくらいなのかということと、地下水がヨシの根に重要であると考えられるので、どのくらい矢板で止めているのかを伺いたい。

【県河川課】

添付しているボーリング孔を利用して自記水位計で計測している地下水計測結果のグラフに記載があるが、矢板締切前後では、TP1.0の水位で安定しているが、矢板打設後ポンプで水替を実施した結果、地下水位が、30cmほど低下して、TP0.7となっている。

下がった原因としては、ポンプで水替していることから一時的に下がったものと考えているが、矢板を引き抜いた後も引き続き観測し、地下水位に対しての影響を検証する必要があると考えている。

底生生物の調査もしており、種類等については施工の前後に変化がないという調査結果であるので、地下水位が30cm低下したことによる底生生物への影響は現時点ではないと考えているが、平成20年度に区間1から4まで工事が錯綜するのでその時点での調査を踏まえて最終的な結論を出すことを考えている。

矢板は4工区の334mのうち全部を打設すると地下水を遮断することが懸念されたので、3工区側の170mについて施工しており、5月に引き抜く予定である。その後の地下水についてもB-1地点で、継続的に調査していきたいと考えている。

【鈴木委員】

底生動物について、変化がなかったということであるが、重要種として数種類について、少し記載されているだけである。底生生物に関しては、県のレッドデータブックにも取り上げられていないため、全体を見てコメントできる点があればコメントしたいと思うので、全体を示していただければと思う。

【県河川課】

概略としてとりまとめた報告となっているので、別途鈴木委員のところにデータを示して意見をいただきたいと思う。

【澤本会長】

(5)報告事項②仙台塩釜港の港湾計画改訂について担当課から説明願う。

(5)②仙台塩釜港の港湾計画改訂について
【県港湾課】 資料-8について説明

【上原委員】

蒲生干潟に対して影響の大きい計画であり、空から鳥がこの図を見たときにどう感じるのかという問題もあるし、環境変化が生じると思うが、蒲生干潟が自然再生事業に取り組んでいるということを踏まえると、平成8年の図と比較して、蒲生干潟への影響をなるべく少なくするというような方法で考えるのか。

【澤本会長】

私は、この構想委員会にも参加しているが、現計画はバブル期のものであるので、長期構想委員会の翌日に新聞に自動車産業に対応する拡張計画ということで掲載された。県が約束しているわけではないが、その分を考慮しても、現計画のような図にまとまることはない。

4 その他

【司会】

①今後の蒲生干潟自然再生協議会の進め方について事務局から説明したい。

①今後の蒲生干潟自然再生協議会の進め方について 資料-6について説明
【再生施設検討部会事務局(自然保護課)】
【管理計画検討部会事務局(環境省東北地方環境事務所)】
【環境教育・市民参加検討部会(仙台市環境管理課)】

【司会】

②委員の改選について事務局から説明したい。

②委員の改選について
【事務局(自然保護課)】

【司会】

現委員の任期は平成20年3月31日であり、引き続き委員の継続を依頼していたが、2名の方から委員の継続ができない旨連絡をもらっている。

澤本会長は、東北大学を退官し、東京に転居することとなった。

呉地委員は、業務多忙のため委員継続困難とのことであるが、後任として日本雁を保護する会の副会長の鈴木道男氏が引き受けていただくことになっている。また、公募委員については、2月22日から1か月間募集したところ、現委員の日下委員から応募がありましたので引き続き委員を引き受けてもらうことになる。

なお、もう一人の公募委員である平出委員は、これまでの協議会で自分の考えを伝えることができたということで、現任期限りで辞退したいと申し出があった。

今後の協議会の運営については、会長が不在となることから、菊地副会長に会長の職務を代行してもらうこととなるが、新会長、新副会長は、次回の協議会で選出することとする。各検討部会は、現在の委員構成で運営していくので次回の協議会を待たずに随時開催していくこととする。

【片桐委員】

平成19年度から宮城野区連合町内会会長、約100団体の宮城野区活動協議会会長を任されており、それに伴うあて職の数が非常に多く、会議に欠席すると言いつらいため、スケジュール調整に困っている。役員会にその旨を話したが、私の後任を誰も希望しなかった。

役員会での話を順番にしていきたい。まず、日和山の件については、役員会では無償だということがあり、乗馬クラブの土地も無償で提供されるということで地元で考えていることを聞いたが、途中で有償ということになり、県の財政が厳しい中で、近い将来赤字団体に転落するという話も聞いているので、地域の住民の考えとしては、県の方でゆとりが出て、自然再生協議会でも買収してもよいとなれば、意見は言うが、これについては、現時点ではノーコメントとする。

特に本日言いたかったことは、NHKのテレビである。蒲生干潟ということで45分の長い時間で、自然再生協議会についてはひとつも出てこなかった。町内会が日和山を観察場所として無償で提供しているのに、地域住民の協力があるということもなかった。蒲生干潟を維持できている影には相当苦勞している地域住民の存在がある。例えば個人的な話を言うと家の前に15アール程野菜を作っているが、ほうれん草などは、1わも食べることができなかった。キャベツ、ブロッコリ等も今年は見事に野鳥のためにやられてかなり苦しんでいる。あるとき山口養魚場で30分くらい話していたが、黒いカモに似た鳥がかなり来ており、養魚場の魚を狙ってペンギンのように潜って、魚をくわえて行くという状況を見たが、相当困っているということであった。野菜を食べられているのは、この辺ではものすごく、今年は、ネギまで食べられてしまったということであった。そのように苦勞している中で、協議会で検討して、自然を残そうとしているということをマスコミで言ってもらわないと、何のための自然再生協議会かという点を疑問に感じたので、事務局で、そういうこともPRしてほしい。

【日下委員】

先ほどの乗馬クラブの件だが、所有者が有償で受けてほしいという前に、県か市であれば、無償でもよいという話であった。ところが、受けるための様々な条件があり、不可能となったので、所有者は、一般の有償売却に変わったということである。念のため付け加えた

い。

それから、環境省、国土交通省、宮城県、仙台市を代表して委員として出席しているが、年度末の異動の時期でもあり、転勤する方もいるかもしれないので、感想を一言お願いしたいと思う。

【伊藤委員】

土木というのは、開発先導型という点で誤解があるが、自然と共生を図るような事業の進め方、取組方が非常に重要であると、認識している。

特に当地区に関しては、地域を守るという点で津波対策として堤防を築造しているが、その際には地域の方々々に用地を提供していただくなど苦勞されている。難航していた地区についても理解と協力のもと契約まで完了できたことにより、当初の約束の平成20年度には完了するように、施工方法等も工夫しながら取り組んでいる。施工に当たっては、環境に配慮する事項について先ほど指摘があったが、事業を進めるに当たっては、スムーズに事業が進捗するように、先生方の助言、地元の理解を得ながら取り組んでいきたいと考えているので、今後とも指導、助言をお願いしたいと思う。

【藤吉委員】

今回、港湾計画の改訂の話をしたが、時代が変わってきていると感じている。蒲生地区には、コンテナターミナルで作業されている人、サーフィンをしている人などがいるが、そういう方々の話を聞きながら、先ほど澤本会長が話されたように、体力に応じた港湾整備を進めていく必要があると感じている。そういう意味で、協議会の中での様々な意見をなるべく考慮した上でモニタリングも含めた事業を進めることが重要であると改めて認識している。

【片桐委員】

三浦部長に、転勤があっても引継ぎをきちんとするようにお願いしてきたところ、承知したとのことであった。港湾の拡張に伴って公園法に基づいて公園を設置する必要があるということで、県が公園を設置する予定があるようだが、自然再生協議会でその公園についても意見が聞かれると思うが、その点配慮願う。

【安齋委員】

伊豆沼も同様の協議会が立ち上がる予定だ。議論をいろいろ聞いた中で、自然を楽しむ方々、利用する方々と同時に周辺に住んでいる地元の方々との調和というのが重要であると感じており、調和を取るのがこの協議会の大きな役割であると考えている。

【川合代理】

公共事業は地域の開発であるが、自然再生法関連にも取り組んでいるところである。港湾事業を行なう当たっては、環境というものが非常に重要であると考えている。緑地帯、防砂林、防風林というものも含めて事業を整備していければと考えている。また再生協議会というものは、東北地方では多く設立されていないが、蒲生干潟については、全国的にも知名度

があるので、今後も参加し、全国に広めるようにしたいと考えている。人の生活、環境、公共事業というものはそれぞれ相反するようなものであるが、調和の取れたものにすれば、非常に良いものとなると感じている。

【橋本委員】

自然再生事業の対象区域が国指定鳥獣保護区特別保護地区と重なることから、委員に参加しているが、管理計画検討部会の運営事務局も任されており、これから難しい問題の検討をすることとなるが、引き続き指導願いたいと思う。

【森谷委員】

会議に参加して感じたことは、いろいろな観点からのアプローチ、バランス感覚が大事であることである。仙台市としては、環境教育市民参加検討部会の運営事務局としての役割を担うこととなっており、来年度早々に部会を立ち上げる方向で検討していきたいと考えている。調和という意見があったが、皆さんの意見を参考に、指導を受けながら、良い方向に向かうように仙台市としても役割を果たしていきたいと考えている。

【司会】

3月末で委員を退任する委員から挨拶をお願いしたいと思う。

【澤本会長】

私事の都合で委員、会長を辞退することとなった。いろいろな意見の方が集まって話し合う協議会は、非常に重要だと思う。蕪栗沼の座長、仙台湾海岸の基本方針の会議で漁協と話をしたりするが、学問も社会、人々とのつながりを持ちながらやっていかなければならないということで蒲生の協議会も含めて勉強させてもらった。協議会としては、全体構想をまとめて、津波対策に目処がついたということで、私としては、大変なところは終わったと思うので、あまり心配しないでやめていけると思っている。三年間お世話になったことについて感謝を申し上げたい。

【平出委員】

仙台市民として参加したので、一市民の一意見として最後の意見を述べたい。委員を継続せずに今回でやめることにはなるが、自然が好きで、蒲生に対する思いは変わらない。蒲生干潟に行くと身震いするような感動を得る。それは、非常に自然が豊かで多くの命が集まっている場だからだと思う。命の大切さを実感する場として、良い勉強となる場所として協議会に参加した。

先ほど配った「土の持つ力」というパンフレットだが、ボランティアで宮城野区の小学校の生徒を対象に子供達が自分達が生活している環境を理解してほしいという趣旨で4年間環境学習を続けている。そして子供達に対して、空気とか水とか土とかという自然は、誰のものでもなく、みんなのもので、みんなというのは人間だけではなく生き物みんなのものであるということ話をしている。今をたまたま生きている我々は、自然のみならず、自分の命さえも借り

受けているという認識に立ち、蒲生干潟のような豊かな自然を後世に残していかなければならない。このような思いで活動を続けている。

この協議会に参加して地域の方や専門の先生が話し合うことによって、良い方向に向かっていると思う。私自身も多くのことを勉強でき、この3年間は非常に有意義であった。このまま協議会が継続されて、蒲生干潟が良くなることを一市民として願っている。

5 閉会

【菊地副会長】

今回で3年の任期が終わるということで、澤本会長、平出委員がこの協議会から離れるということを聞いて、特に澤本会長には、協議会を取り仕切ってもらい、私は、副会長といいながら、自由な一人の委員としての立場で発言ができたので非常にありがたく思っている。平出委員は最後ということだが、今後ともこの協議会の動向を見守っていただき、何か意見があればメールでもいただければこの協議会に反映したいと思う。澤本会長にもよろしくお願ひしたいと思う。他の方は、これから3年間引き続きになるので、乗馬クラブ用地の問題も出ているし、これからも難しい問題が次々起こることもあるので、よろしくお願ひしたいと思う。片桐委員は、これからも忙しくなるにもかかわらず、続けていただけるということで、今後ともよろしくお願ひしたいと思う。